

「立ち上がる農山漁村」選定案概要書

取組分野：【交流】【知的財産】

1. 都道府県、市町村 みなみあしがらし
神奈川県南足柄市
2. 事業者名 あしがら花紀行千津島地区実行委員会
3. 取組みの名称 四季折々に咲く花による地域おこし「あしがら花紀行」の先駆団体

4. 取組概要等

概要

平成7年、水田の区画等を整備する事業を行う「千津島地区ほ場整備事業組合」に、酔芙蓉や春めき（足柄桜）を利用した里づくりの提案があり、取り組みを開始した。平成13年にほ場整備事業が完了した後、それまでの事業を引き継ぐ形で「あしがら花紀行千津島地区実行委員会」が設立された。

「あしがら花紀行」は、四季折々に咲く花による地域おこしであり、年間を通して花を見ることができるエリアづくりを推進し、そこから観光のエリア、さらには地域振興のエリアへと発展させ、地域住民主体により、年間400～500万人の都市交流型の経済圏を足柄地域に誕生させることを目的としている。

千津島実行委員会では、春は菜の花・春めきまつり、夏はハナアオイまつり、秋は酔芙蓉まつりなどを開催し、地域住民手作りの「ふくざわ公園」を中心に、地元で取れた農産物や特産品を販売し、また地域ならではのイベントを開催するなど、都市住民との交流を積極的に図り、花による地域おこしの先駆けとして活動をしている。そして、それぞれの花のイベントや花の管理は、地域ぐるみでのボランティア活動と位置づけるとともに、次世代を担う小中学生の総合的な学習の場として提供するなど、地域が育む人づくり教育にも貢献している。

イベント開催時には多くの地元住民にも参加を呼びかけ、回遊コースには農産物の直売所を入れることで地産地消を意識した農産物の販売を行い、総合的な地域のコミュニティを図っている。また、イベントの実施だけでなく、花紀行の花をイメージした和菓子「花大福」や足柄を代表する金太郎をモチーフとした「まんじゅう金太郎伝説」等、地域の特性に着目した特産品の開発を手がけ、商標登録、意匠登録しオリジナル性を出している。

活動の規模

項目	H14	H15	H16	H17	H18
売り上げ	60	180	240	300	400
解説	単位：万円 野菜・果物などの農産物、漬物などの農産加工品、花大福や金太郎人形などの特産物を販売				
来客数	2	6	8	10	12
解説	単位：万人 H15よりハナアオイまつり開催、観光ビール園開園により来客増加				
イベント回数	2	3	3	3	3
解説	単位：回 H15よりハナアオイまつり開催				
イベント参加者	300	600	600	600	600
解説	単位：人 来客数増に伴い参加者増加				

活用している地域資源

南足柄市内の地域資源

- ・平成14年に操業開始し、観光ビール園を併設したアサヒビール神奈川工場

- ・曹洞宗の名刹 大雄山最乗寺
- ・金太郎が産湯をつかったとされる「夕日の滝」
- ・富士フィルム神奈川工場近くにある「春小径」「幸せ道」
- ・丸太の森

地域活性化のポイント

花による地域おこし「あしがら花紀行」の先駆けである「あしがら花紀行千津島地区実行委員会」を中心に足柄地域でそのネットワーク化が図られ、平成17年11月に市内11団体650人の「あしがら花紀行ネットワーク」が設立された。さらに平成18年には、南足柄市内2団体、開成町2団体が加わり、その広域化が図られている。

千津島地区以外にも、2団体が花の開花する季節にはイベントを開催し、**都市住民との交流が図られた地域振興・地域活性化に寄与している。**

事業の今後の展開方向

今後もさらに「あしがら花紀行」の取組を拡大するとともに、足柄地域1市5町（南足柄市、開成町、山北町、松田町、大井町、中井町）共通の事業として発展させたい。

平成19年からは、遊休農地を利用した地域おこし「ユートピア構想」をスタートさせ、農地を開放し、都市住民を呼び入れた土地利用（農地の社会化）をキーワードにした都市型農業を目指していく。

また、地元企業により平成18年10月から箱根外輪山である大雄山最乗寺近くの山林で温泉の掘削が開始され、四季折々に咲く花のエリアと連携した、新たな観光資源の創設が期待されている。

そして、これらの地域資源との有機的な連携を図り、持続可能な活動とし、地域住民主体の里づくり、地域づくりにより、足柄地域に年間400～500万人の都市交流型の経済圏を誕生させたいと考えている。

「きれいな花を見て怒る人は誰もいない」この言葉が「あしがら花紀行」を今後も推進する源泉とし、農業をはじめとする地域経済の活性化や地域雇用の創造を形あるものにする足柄ならではの取り組みを進めていく。

